

## 増え続ける「無自覚ホームレス」

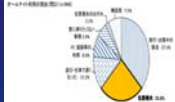
宇山 美恵

## ネットカフェ難民の実態

これまで過ごしていた自宅や家などの住居を諸般の事情で退去させられ、24時間営業のインターネットカフェや漫画喫茶などをホテル代わりにすることで夜を明かし、主に日雇いの派遣労働と呼ばれる雇用形態で生活を維持している者を指す (Wikipediaより引用)

東京都が発表した調査によると、2018年1月現在、都内のネットカフェ難民は4000人にも上る。その7割近い約3000人の多くが現在、非正規雇用者等、不安定な生き方を強いられている。

- ・オールナイト利用者のうち男が85.9%
- ・20代が27.8%、30代が29.3%、40代が18.7%、50代が17.3%。
- ・利用者のほとんどが仕事はしている
- ・建設関係、運転・運搬&倉庫関係、製造関係、清掃、飲食、販売など。
- ・ほとんど日雇い！！！！
- ・月収は15万円未満が多い、生活費は一般とあまり変わらない?? (画像:「住居喪失不安定就労者等の実態に関する調査報告書」厚生労働省より)



## 対策は取られているの？

- ・ 自民党の舛添要一「税金でやる気のない人を救っていいのか」
- ネットカフェ難民をどう見るのか(ネットカフェ難民は厚生労働省から「ホームレス」の対象外とされており、住宅支援などが受けられない)
- ・ 雇用、労災、医療保険にも年金にも入れない
- ・ ほとんどが単身であり、家族からの支援も見込めない。
- ・ ハローワークに専門相談員を配置、喜や住み込みの仕事を中心に紹介。
- ・ 私たちは複合カフェ業界の健全な発展のために日々努力しておりますので、あたくも一部利用者が「ネットカフェ難民」と定義付けされる様な一部報道に、業界を代表して遺憾の意を表します。(日本複合カフェ協会(JCCA))
- ・ 幾つかの支援団体(NPO法人 シェア・マインドなど)は、対象者の自立支援に取り組んでいる。

## 若者に広がるハウジングプア



- ・ 「派遣切りに遭って仕事を失い、寮も追い出されて行くところがない」
- ・ 「今年初めは、派遣切りされ、住まいに困窮した人が中心でしたが、最近では企業をリストラされた正社員や自営業者など、あらゆる職種、立場の人に広がっています。失業保険や貯金で何とか食いつないで来たけれど、それもなくなり、いよいよ家賃が払えなくなったという人も出始めている。20代、30代の若者が目立つのも特徴です」(NPO法人「もやい」)
- ・ 彼らは非正規のため、住宅手当や社会保険等の「企業福祉」を受けすることもできない。また、実家が貧しかったり、縁を切られていたり、**「企業福祉」からも「家族福祉」からも見放されてしまっている多くの若者がいる。**
- ・ 身分証がないゆえにネットカフェにさえ泊まれない人も
- 「脱法ハウス」の存在

※全画像はインターネットサイト「ホームレス問題」から「ハウジングプア問題」へ: 稲葉剛さんが語る「不安定居住の変遷と広がり」より引用



## まとめ

- ・ 住居喪失と社会的孤立が重なって生まれる
- ・ 頼る人がいない、住居がないと何もできないシステムが原因、抜け出せない負のループ
- ・ 無自覚ホームレス。彼らにもっと支援を。

—参考文献—

- ・ 「ハウジングプア—簡単にホームレスに陥ってしまう若者たち」 Jbigissue-online.jp
- ・ 「ネットカフェ難民/住所のない方たちへ—NPO法人シェア・マインド」 sharemind.jp.com
- ・ 「住居喪失不安定就労者等の実態に関する調査報告書」 厚生労働省
- ・ 「「ホームレス問題」から「ハウジングプア問題」へ: 稲葉剛さんが語る「不安定居住の変遷と広がり」 bigissue-online.jp/archives/1005933867.html